

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.107】H24(2012).10.22
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

第５０回北海道障害者スポーツ大会釧路大会
今金高等養護学校選手団表敬訪問
金メダル３、銀メダル１、銅メダル４を胸に凱旋

去る９月２日、釧路市陸上競技場で開催された第５０回北海道障害者スポーツ大会に出場し見事な成績を残した今金高等養護学校の選手３名と佐々木校長先生と監督の金子先生、コーチの山田先生が成績報告とお礼にて表敬訪問をいただきました。



教育委員会からも今金高等養護学校の卒業生で現在就労支援制度により勤務をしている嘱託主事の奈良貴章君も選手としても参加し見事な成績を収めました。成績は、次の通りです。

〔男子ソフトボール投げ少年の部〕
奈良貴章（今金町教委）第１位７１．３５ｍ
本井　祐（今金養護）　第２位７０．０８ｍ
〔女子ソフトボール投げ少年の部〕
西　絵美（今金養護）　第１位１７．９０ｍ
〔女子１５００ｍ〕
山田美梅子（今金養護）第１位
７分１３秒１３
〔４×１００ｍリレー〕
奈良・本井・山田・西　第３位
１分０３秒１７

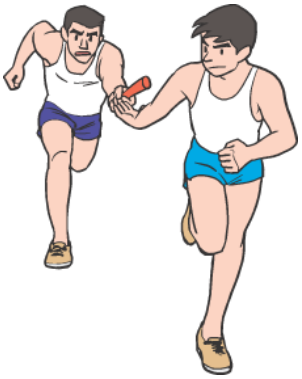
また、奈良君は、コーチや引率研修としても同行していますのでその感想を寄せてくれました。

第５０回北海道障害者スポーツ大会同行記
今金町教育委員会　嘱託主事　奈 良 貴 章

私が、北海道障害者スポーツ大会に出場したのは高校１年生の時でした。当時、私は８００ｍ走に出場して結果は３位で残念ながら北海道代表として全国大会に行く事ができませんでしたが、自分の中では１回は全国大会に行きたいと言う願望を心の中に残したまま今金高等養護学校を卒業してしまいました…。

今金町教育委員会で勤務をして、今年で２年目を迎えます。自分が高校１年生の時に果たせなかった初の全国大会に出場するチャンスがもう一度きました。しかも、今回は後輩達の指導など“コーチとしての役割”を与えて貰えました。私は初めて会う人に『何かを教える』のが、苦手としている事だったので克服するために良い機会で、自分にとって一つの研修だと思いながら後輩達と一緒に練習をしました。

私は、陸上経験は少しありますがコーチとして、上手く後輩達に何を教えたら良いのかわかりませんでした。練習メニューの紙を貰い、それに加えて自分なりに考えた練習を先生方が来ない時間にやってみたり、アレンジしながら練習をやりました。練習の後半に入ってから、今回は男女混合１００ｍ×４リレーにも出場させて頂く事になったのでリレーの練習もやってきました。



リレーは、個人の能力も大事ですが一番大切なのは“バトン”を最後まで繋ぐ事だと思います。リレーは“チームワーク”が勝つために必要な一つのキーワードだと思うので、まず声で合図を出してバトンを渡す練習を重点的にやりました。中々、上手くバトンを渡す事ができないまま本番に臨みました。その結果リレーでは６組中３位に入る事ができ、バトンも落とさず最後まで繋ぐ事ができ、目標だった“メダルを取る”を達成する事ができたので良かったです。他の種目でも選手全員がメダルを取る事ができ、結果…全員が２個以上メダルを取る事ができたので良かったです。



今回は７月８日が私の２０歳の誕生日で、教育委員会事務局職員の皆さんから大会で着る“ユニフォーム”を誕生日プレゼントとして頂ける等、大会会場が釧路市での開催のため車の手配をして頂き長時間、長距離を運転して頂いた事、勤務中にコーチとしての役割を与えて頂き後輩達と一緒に練習する事ができた事、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、橘教育委員長です。

圏内と圏外　そして　変わりゆく秋

数年前の秋のこと。いつも行く川ですが、秋の川は特別に寂しいものです。以前この川で熊とまともに遭遇した経験があるものですから、落ち葉の吹き寄せが川面のそちらこちらに見られ、尾根を渡り木々へと吹き降ろす風の音なども言葉では表現のできないほど、侘しさ寂しさを倍加させます。その時季の釣りは、楽しさと恐ろしさの同居した奇妙なものとなります。

桜マスの産卵と同時に役目を果たしたやせ細り真っ黒になった大型のヤマベが緩やかな流れの中に情けない姿で、流れ来る餌を待っている姿がよく見られます。



彼らは、翌年、山々の木々が盛り上がるような青葉で覆われる頃には、一段と成長し、釣り人には、なかなか姿を見せてくれない「つわもの」としてよみがえります。

寂しい秋の川の本命は、前年に生まれたヤマベでも成長の早い大型の新子で１４～１６㎝ほどの銀色に輝きスマートで美しく、身もしまり川魚特有の生臭みもなく、から揚げ塩ふり焼きなどは、ずば抜けて美味しく、夏の優れものとは一味違うものを釣ることです。

１０月半ばのある日、期待充分で川に入り、携帯電話を持っていきましたが、気持ちの保険みたいなものと思っていました。

釣り行くうちに、「ブドウ・マタタビ」の大きな棚が見え、足下が気になり川原の砂地を見ると人間の裸足の跡のようなものが見える。こんな時季に、こんなところで裸足で歩く人などいるはずがない。そくさくと林道に戻り、気持ちの保険としか期待していなかった携帯電話は、案の定「圏外」を表示、林道を歩いて３分もすると「熊出没注意」の看板があった。

何のことはない、今までいたところは、「熊の圏内」。友人が言う、進歩著しい携帯電話に「熊感知機能」がついたら便利なのに。



今年の同じ時季の川は、その侘びしさ寂しさを感じさせない。落ち葉の吹き寄せもなく、つまり紅葉が遅れ落ち葉が遅くれているためであろう。

極めつけは、たまには熊の足跡を見かける川辺の砂地に、エゾ鹿のひづめ跡をはじめて見た。この地の紅葉も２週間ほどのずれが出始めており、近くの総合公園のブナ林の黄葉のピークも、いつの間に１０月の末になっております。秋口の気温の高かった影響は庭のリンゴの成熟にも出ております。最低気温が特に高かったためか成長期間が長く色づきが遅れ大型のものが多くなっており、味も大味となるものと思います。多分、ほかの植物にも何らかの影響が及んでいるものと思われます。秋はわずか数年で何かが変わってきている。



